News letter vol.7

森のムッレ教室とは？

約 60 年前、ヨスタ・フロム氏によって作られたスウェーデン発の子ども向け環境教育です。持続可能な社会形成を目指し、世界 11 ヶ国に広がっています。

(社)日本野外生活推進協会

2018.7.10 発行

どの部分が花か、ご存じですか？

2018 年度のスタート

日本野外生活推進協会　代表理事　高見　豊

アジサイの花もピークを過ぎ、暑さ厳しい真夏に入りましたがリーダーの皆さまにはご健勝のこととお喜び申し上げます。

5月 31 日、（社）日本野外生活推進協会の 2018 年度定期総会が無事終わりました。

総会では事業報告・決算報告・新年度事業計画・予算案が可決、２名の役員の改選があり、新メンバーとともに新年度の活動が勢いよくスタートいたしました。

昨年度は、創立 25 周年記念式典や国際シンポジウムがあり、節目の年となりました。

本年も充実した１年になるよう努めてまいります。

すでに５月には本部の第 206 回森のムッレリーダー養成講座に続く連続講座に始まり、同じく５月のスウェーデン保育研修には７名の皆さまが参加されました。今回のニュースレターでも特集を記載いたしました。

７月にはリーダーの皆さまのスキルアップのためにスウェーデンから講師を招き、ステップアップ講座を開催、15 日には「リーダーステップアップ講座」、16 日には「講師ステップアップ講座」の２つの講座を開催いたします。

さらに７月には、森のムッレ協会新潟が 20 周年を迎えられました。その 20 年間の集大成ともいえるムッレ教室事例集「身近な自然と遊んで育つ保育実践」を３月に発刊、その祝賀会が開催されます。共に喜びあいたと思います。

また昨年は「森のムッレ国際シンポジウム in ウエールズ」があり、全国シンポジウムはお休みでしたが、本年は、第５回「森のムッレ全国ネットワーク代表者会議」と第 7 回「森のムッレ全国シンポジウム」を奈良県で開催いたします。「NPO 法人奈良地域の学び推進機構」のリーダー・スタッフの皆さまと奈良教育大学の皆様に大変お世話になります。よろしくお願いいたします。

今年度も全国各地でリーダー養成講座の開催が計画されています。

全国で展開されるリーダー養成講座や森のムッレ教室の情報、スウェーデンをはじめ国際ネットワークの情報をホームページと Facebook の活用により発信してまいります。

少しずつリーダーの皆さまへタイムリーな情報を伝えることができるようになってまいりましたが、ムッレの情報をネットワーク組織全体で共有するためには、ネットワーク団体の皆さまからの情報提供も必要になってまいります。皆さまの情報を協会事務局へお寄せください。お役に立つ情報を発信していきたいと考えております。

本年度も皆さま方のご指導とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

理　事

代表理事	高見　豊
理 事	君塚　昌俊
理 事	小山　通子
理 事	西村　恭子
理 事	本荘　賀寿美
理 事	原田　優
理 事	荻野　尚子
理 事	阪谷　裕子
理 事	吉住　亜由美
監 事	足立　邦明
監 事	余田　淳子

SKOGSMULLE
FRILUFTSFRÄMJANDET

事務局

事務局長　高見　幸子

協会事務局事務員
松本 みゆき

ネットワーク事務局事務員
松 枝　純

✳・✳　特集　スウェーデン ムッレ保育研修　✳・✳

２０１８年5月１３日（日）～２０日（日）、スウェーデンのムッレボーイ園とバッテンドロッペン園、ブレンニンゲベーゲン就学前学校等でのムッレ保育研修に７名の皆さまがご参加されました。

参加者（７名）
(写真上段左から) 慶応義塾大学 佐藤歩美
認定こども園あいいくの丘 大槻襟加
ブレンニンゲベーゲン就学前学校ツーラ・トーロ校長
同校 カミラ・リンドグレン オーナー
認定こども園あいいくの丘 久下瑠佳子
(下段右) 認定こども園あいいくの丘 髙橋佳鈴
保城こども園 樋渡功子
保城さくらんぼこども園 山本美須代
認定こども園あいいくの丘 須原葵　（敬称略）

研修日程

5月 13 日(日)
　関西国際空港から出発(ヘルシンキ経由)
5月１４日(月)
　マグヌス・リンデ、シーブ・リンデ夫妻による事前研修
5月１５日(火)～１６日(水)
　ムッレボーイ園とバッテンドロッペン園でのムッレ保育研修
5月１７日(木)
　ブレンニンゲベーゲン就学前学校視察とステップアップ講座
5月１８日(金)
　ストックホルム市内視察
5月１９日(土)～20 日(日)
　ストックホルム・アーランダ国際空港から帰国(ヘルシンキ経由)

研修１日目、シーブ氏・マグヌス氏による実習にて

ご参加いただいた皆さんのご感想

佐藤 歩美　リーダー

研修の内容は、実践的な自然の遊びから先生方のお気持ち、運営に関する事柄など、多方にわたりました。複数の園での見学及び実習においてそれぞれの園の強みや土地による特色の違いを発見できたと同時に、野外保育園（I Ur och Skur）そしてムッレ教育の基礎の徹底ぶりに大変驚きました。

Vattendroppen 園の先生のお言葉で、「自由には責任がつきものだが、その責任を負える範囲を子どもが自分で見極める能力を育む」というものが非常に印象に残っています。

　スウェーデンの野外保育園は地形や気候、国民性、生活意識などの結晶でもあり、私が想像していたものよりもはるかにきめ細やかに組織立っているものであると感じました。日本の保育の強みである保育者の姿勢、食育の重要視、動植物の多様性、衛生管理の徹底などを揺らがぬ基礎としつつ、スウェーデンの保育に見た子どもたちの圧倒的な伸びやかさを実現できるような保育を考えていきたいと思います。

Vattendroppen 園での実習の様子

大槻 襟加　リーダー

最終日でのムッレ研修は、ブレンニンゲ園の公開保育に一緒に参加させて頂き、森に行ってムッレたちに会いました。環境や登場人物等が日本とはまた違い、子どもの頃に戻ったような気持ちになり、とても感動的でした。

講座でお世話になったツーラさん、カミラさんの印象は、とても明るく楽しい方で、貴重な時間を過ごすことができました。色々な遊びを教えて頂いた中で、「小鳥の遊び」は自然のエチケットのテーマに合っていたので、帰宅後、園のムッレ教室で早速取り入れると、子ども達も喜び、遊びを通して生き物の大切さに気付けている事に関心しました。私自身も、小さい頃の経験や遊びなどはずっと残っているので、そんな経験等から自然に森を大切にする子どもの心を育てていけるよう、今後の保育に研修で学んだことはどんどん取り入れていきたいと思います。

この研修でお世話になった皆さんと、また夏に日本で会える日を楽しみにしています。

本部の皆さま、スウェーデンの皆さま、とても楽しく有意義な研修の機会をありがとうございました。

久下 瑠佳子　リーダー

自分自身が保育園児の頃にしたクニュータナ・ムッレでの経験は、楽しかった思い出としてずっと記憶にあり、保育教諭となりムッレ教室リーダー養成講座を受講し、そこで初めてスウェーデンがムッレの本拠地であり、園児の時には行事として何気なく参加していたムッレの活動内容などが、貴重な経験だったことを実感しました。今回、スウェーデンで研修があると聞き、本拠地であるスウェーデンでの保育に興味をもち、ぜひ参加したいと思いました。

初日は森の中での研修でした。日本とはまた違った緑豊かな草原と天気の良さに、期待感が増しました。日本でも生えている身近なコケや花などの植物の役割や特徴などを教えていただき、初めて知ることがたくさんありました。一番印象に残っているのは大きなアリ塚で、じーっと見入ってしまうほどでした。

森の中でいろいろな発見や経験をさせていただいたり、ムッレにも会えたりと、園児の頃に戻ったかのような気持ちでとても楽しく、またたくさん学ぶことができた貴重な５日間の研修でした。

高橋 佳鈴　リーダー

ムッレ・ボーイ園での二日間の研修は想像を超える自然体験でした。子どもたちとは、言葉が通じ合わなくても、心で通じ合えたように思います。子どもたちにとって自然は、まるで友だちであるかのように身近な存在であるように感じました。倒れた木々でさえ、最高のあそび場でした。

ある時、男の子が木に登ろうとしましたが、自分の力では登れず苦戦していました。しかし、誰に助けを求めることもなく、何度も挑戦する姿がそこにはありました。自然の中で五感を通した経験が自然を大切にしようとする気持ちだけでなく、「自分でやってみる」という挑戦する心をも育てているのだと実感することができました。

また、クロロフィルの役割をコックさんに見立てたわかりやすい導入や、布で包んだ葉っぱを金づちで打ち、布についたクロロフィルを目で見て実際に確かめることのできる体験など、今後の保育にいかせるものをたくさん学ぶことが出来ました。

今回の研修でお世話になった本部・スウェーデンの皆さまに心より感謝申し上げます。

須原 葵　リーダー

リディンギョ市にあるバッテンドロッペン園に研修に行かせて頂きました。この園では１週間に３回森に出掛けます。スウェーデンには自然享受権という権利があり、誰でもいつでも森に入ることが出来、誰が入ったとしても美しい自然が保たれていることに驚きました。バッテンドロッペンの子どもたちは、森に入ると場所の制限なしに自由に走ったり、自然を観察したりしていました。

子どもの主体性を第一に考え、子どもの興味をもったことに対して、まずは子どもの意欲を認め、その子どもに寄り添い、話しをされている姿に感動しました。

スウェーデンは自然が豊かであり、子どもたちが自由に活動できる空間がムッレ教室には欠かせないと事を改めて感じ、日本との違いも実感しました。

また何より、子どもに何を学んで欲しいのか、どのように育って欲しいのかというねらいをきちんと考え、活動していく大切さを再確認しました。

今回の研修で学んだことを生かし、子どもたちに自然を大切にする心が育つよう取り組んでいきたいと思います。

ステップアップ講座開講です!!

カミラ・リンドグレン氏 と ツーラ・トーロ氏

2018 年 7 月 15 日(日)にリーダーのための、16 日(祝・月)に講師のためのステップアップ講座を兵庫県丹波市市島町で、21 日(土)には森のムッレ新潟においてリーダーステップアップ講座を開講いたします。講師はスウェーデンからツーラ・トーロ氏、カミラ・リンドグレン氏を迎え、具体的なムッレ教室における実践の提案やアプローチの方法など実技と座学を交えた内容です。通訳は高見幸子事務局長が担当します。くわしくは、当協会フェイスブックをご覧いただくか、事務局までお問い合わせください。

講師プロフィール

ツーラ・トーロ氏　Tuula Torro

フィンランド生まれ。スウェーデンのリンショッピング大学で就学前学校の教師の資格を取得、スウェーデンの公立の就学前学校と小学校で 20 年勤務。2011 年にカミラ氏と共に、就学前学校の教師の研修・コンサルタント会社、バーバラステイーガー株式会社を設立しオーナーに就任。ブレンニンゲベーゲン就学前学校校長でもある。全国の保育の質の向上に強い関心を持っている。

カミラ・リンドグレン氏　Camilla Lindgren

マルメ大学で就学前学校の教師の資格を取得、公立の就学前学校で 14 年勤務。2011 年にツーラ氏と共にバーバラステイーガー株式会社を設立。同株式会社とブレンニンゲベーゲン就学前学校のオーナー兼代表取締役である。

RUS 就学前学校で子どもが安心して過ごせる人間関係をつくる方法を共同開発し、3冊の本を出版。これらの本は、慣らし保育において教師と保護者との協力関係をつくることの重要性を取り上げている。

両名とも、スウェーデン野外生活推進協会の公認の講師で、長年協会のリーダー養成講座やワークショップの講師を務めている。ツーラ氏は、フィンランドでも森のムッレリーダー養成講座の講師を務めている。また、スウェーデン協会本部とセーブザチルドレン財団の協働プロジェクトにも参画。国内外からの視察も多く受け入れ、簡単な野外での活動を導入することで子どもの生活を豊かにし、健康を向上させることができることを見せている。趣味はキノコ狩り。

森のムッレ協会新潟

創立２０周年、ムッレ教室実践集出版

おめでとうございます

森のムッレ協会新潟では創立２０周年を迎え、2018 年 7 月 21 日(土)に２０周年記念と出版記念祝賀会を執り行われることとなりました。

「森のムッレ教室」を取り入れた保育を長きに渡り実践され、現在１４加盟園を取りまとめておられるネットワーク団体です。

また、本年３月には加盟各保育園による実践記録集「身近な自然と遊んで育つ保育実践」（わかば社）を出版、活動を余すところなく掲載されており、現役リーダーの皆さまをはじめ、これから「森のムッレ教室」を取り組もうとされている皆さまのご活動の指針となる一冊です。

ぜひご一読ください。

「身近な自然と遊んで育つ保育実践
～スウェーデンの自然環境教育から～」

櫻井慶一 監修

森のムッレ協会新潟 編集

2,160 円（税込）

出版社　わかば社
ISBN 978-4-907270-20-9
判型／頁数
B5／120P（全頁フルカラー）

「森のムッレしずおか」を設立されました！！

静岡県浜松市で静岡県及び浜松市の環境学習指導員として活動されている鈴木輝久氏、2018 年２月に「森のムッレしずおか」(愛称「コリコック森のしぜんきょうしつしずおか」)を設立されました。

９月にはリーダー養成講座を開催、今後のご活躍に注目です。

ご活動の詳細はこちらをご覧ください。

「自然の恵み」

https://blogs.yahoo.co.jp/teru00321/

日本ＥＳＤ学会第１回大会に登壇されます

2018 年8月 18 日（土）・19 日（日）、奈良教育大学（奈良市高畑町）において日本ＥＳＤ学会第１回大会が開催され、１８日（土）に佐伯美保氏（環境ネットワーク「虹」代表）が「地域の緑地での森のムッレ教室等を通じたＥＳＤの推進」、桑田久美子氏（森のムッレ園ぽっぽ園長）が「幼児期からのＥＳＤ、森のムッレ園ぽっぽの取組み」と題し登壇されます。

くわしくは、日本ＥＳＤ学会のホームページ（http://jsesd.xsrv.jp/）をご覧ください。

日本ＥＳＤ学会第１回大会発表プログラム
http://jsesd.xsrv.jp/wp-content/uploads/2018/07/ESD2018-TimeSchedule.pdf

ネットワーク組織代表者会議と全国シンポジウム in 奈良のお知らせ

第５回ネットワーク組織代表者会議

日時：２０１８年１１月２３日（祝・金）
１３時３０分～

第７回森のムッレ全国シンポジウム in 奈良

日時：２０１８年１１月２４日(土)～２５日(日)
会場：奈良市青少年野外活動センター
（奈良県奈良市阪原町 25-1）
https://www.chiiki-manabi.net/

ネットワーク組織代表者会議は、事務局からの近況報告、ネットワーク組織の皆さまからの活動報告、今後の課題など、これからの活動のための情報共有の場として開催いたします。

翌日からの全国シンポジウムは、ＮＰＯ法人奈良地域の学び推進機構の皆さまを中心とした実行委員会により、全国のリーダーの資質向上とムッレ活動の支援、情報交換の場として、またムッレ体験教室開催いたします。

くわしくは、当協会フェイスブックで、リーダーの皆さまはメールにてご案内させていただきます。

＊□＊投稿文募集のお知らせ＊□＊

ご自身のムッレ活動や野外活動に関する様々な情報、ご意見・ご感想などを募集しています！
①コラム名、②著者名、③所属先名、④電話番号、④E-mail をご入力の上、投稿文と活動写真(1～2 枚)を添えて、E-mail にてお送り下さい。ご投稿お待ちしています。
担当：松枝　　E-mail: mulle2639@gmail.com

スウェーデンが導入した「教育的ドキュメンテーション」とは？

愛知淑徳大学福祉貢献学部の白石淑江教授（子ども福祉専攻）の編著で、スウェーデンの教育実践の本が本年４月に出版されました。

保育の質の向上を目指して開発された教育ツール「教育的ドキュメンテーション」とはどのようなプロジェクトなのか、国内外の実践例を紹介しながら解説されています。

スウェーデンの実例の一つとして「森のムッレ教育」も取り上げられ、ムッレボーイ園でのテーマ活動とドキュメンテーションの具体例をカイサ・シェルストロム氏（ムッレボーイ園園長）とカミラ・ヒラート氏（ムッレボーイ保育士）に高見幸子事務局長がインタビューした内容が掲載されております。

日本での学び方も「子ども主体の保育」に変化する中、保育現場におられる方のみならず、子育ての視点からも興味深い内容です。ぜひご一読ください。

「スウェーデンに学ぶドキュメンテーションの活用
子どもから出発する保育実践」
著者・編者・訳者　白石淑江編著
2,592 円（税込）
出版社　新評論
ISBN　978-4-7948-1091-5　C0037
判型/頁数　Ａ５判並製/256P

２０１８年度
森のムッレ教室リーダー養成講座のお知らせ

第２０９回
広島県広島市　みどりの森保育園
2018 年９月１日（土）～2日（日）
（募集をしめきりました）

第２１０回
静岡県浜松市　浜松市青少年の家
2018年９月１５日（土）～１６日（日）
受講お待ちいたしております